

あそびから未来をかえる

あそび場が、地域の課題を解決するソリューションに

子どもにとって遊ぶことは、食べることや眠ることと同じように健やかな成長に欠かせないものだ。東京・渋谷に本拠を置くボーネルンドは、そうした哲学に基づいて豊かなあそび環境の創出に取り組んできた。最近では同様の問題意識を持つ自治体が増え、同社と協業してあそび場をつくる例が急増。子どもが楽しめるだけでなく、親同士の交流の場としても機能しており、子育てに欠かせない社会基盤として存在感を増している。



PHOTOS/AYUMI NAKANISHI



「安城産業文化公園デンパーク」（愛知県安城市）
高さ12mの大型遊具で、全身を使って思い切り遊べる

子育てインフラとしての役割担う

地域全体で子ども育てる

多くの自治体で若年層の流出が課題となっている。若者の定住を促すため、子育てしやすい街づくりに取り組み、支援を拡充する動きも活発化している。



安城市長

神谷 学氏

ですと語るのは、安城市長の神谷学氏。「こうしたあそび場で楽しみながら様々な経験をすることは、子どもたちの将来にプラスに思えます」。

境のあり方に注目。この分野のバイオニアであるボーネルンドと協業し、子育て環境の充実を図る動きをみせている。農業が盛んで、かつて「日本デンマーク」と呼ばれた愛知県安城市は、同市の代表的公園「安城産業文化公園デンパーク」が開園20周年を迎えるのを機に、園内の一部エリアをリニューアル。子どもも楽しい「デンパーク」をコンセプトに、ボーネルンドと協業して屋内外のあそび場を整備した。

リニューアルエリアで特に目を引くのは「風車の広場」に設置した高さ12mにおよぶ園内最大級の大型木製遊具だ。登る、下がる、背伸びする、バランスを取るなど森の中で木登りするような全身運動ができ、高低差があるため危険を予測する力や課題解決力も育めるという。

「子どもは、あそびから大切なことを学びます。子ども時代に豊かな体験をしている人は、生きるために必要なたくましさや身に付けているもの」。



「安城産業文化公園デンパーク」（愛知県安城市）



和田 慎司氏

同施設は行政、企業、市内の認定こども園など地域全体が運営に協力。保育士など専門スタッフが常駐し、土日祝日も育児相談ができる窓口のほか、ボーネルンドと協業してあそび場を設けた。

小松市長



地元への誇りを育めるよう、小松市を象徴する景観・産業を環境デザインのモチーフにしている「カブッキーランド」内のあそび場「すくすくひろば」（石川県小松市）

「このあそび場は安全性が高く、天候に関係なく遊べます。子どもが一瞬であそびに夢中になる姿は、まるで魔法のようです。小松市長の和田慎司氏は喜ぶ。あそびを通じて自ら考え工夫すること、友達と仲良く過ごすことが、その後人間形成に大きな影響を与えます。その意味で、こうしたあそび場は幼児教育の新たな形だと思います」。

人口約10万人の小松市にあって、同施設は昨年12月のオープンからわずか1カ月間で1万人の来場者を記録。大雪でも客足が途切れることはなく、4月末までに延べ4万人を超える来場者を迎えた。「年間パスポートの購入者も多く、何度も遊びに来てくれています。こまつ賑わいセンター事務局長の岡山敏弘氏。同施設は離乳食講座を開くなど親同士のつながりをつくる機会も設けており、子育て世帯の心強い支援拠点となっている。



「カブッキーランド」（石川県小松市）

こうしたボーネルンドと自治体の協業は全国に広がりをみせており、これまでに25施設が実現した。

親同士の交流の場に

ボーネルンドがつくるあそび場は親同士の交流の場にもなっている。気軽に話し合える雰囲気があり、新米ママの不安解消にも一役買っている。「子育てするのになくてはならない存在」という声も多い。原発事故の影響で外遊びが難しくなった子どもたちのため、地元企業の多大なる協力のもと、郡山市が設置したボーネルンドがプロデュースした「ベップキッズこねりやま」（福島県郡山市）には、2011年12月の開業から6年余で延べ

200万人が来場した。運営を担う郡山ベップ子育てネットワークの理事長で小児科医の菊池信太郎氏は「こうしたあそび場が子どもの発達には不可欠であり、子どもにとって重要なインフラである」と訴える。

子どもが自立した大人に成長するために必要な環境を整え、社会全体で子どもを育てる意識を広げていく。そうした取り組みが日本の未来を明るくしていくに違いない。

ビジネスにも活用広がる

スズキ・ショールーム「LiMO LiMOもりた」（静岡県浜松市）

スズキ正規ディーラーのスズキ販売新静岡は、車のショールームの約半分のスペースをあそび場として無料開放している。公園のように気軽に立ち寄れるため周辺住民が日常的に利用。利用者との関係が深まるにつれて商品・サービスの販売も増え、あそび場を設置する前に比べ、売り上げは1.5倍に増大した。同様のコンセプトで2号店をオープンするなど、あそび場が事業拡大を後押ししている。



株式会社ボーネルンド

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-3-12

大型遊具掲載「あそび環境カタログ プレイスケープ」を先着100名様にプレゼントします。メールでご請求ください。

請求先 info@bornelund.co.jp

※件名を「日経カタログ係」とし、お名前、団体または企業名、送付先住所、電話番号を明記してお送りください。

※カタログプレゼントは団体・企業の方に限らせていただきます。

※カタログはWebからもご覧いただけます。

www.bornelund.co.jp

ボーネルンド

検索

あそびから未来をかえる



ボーネルンド